

あの「ガラス工芸展」が帰ってきた

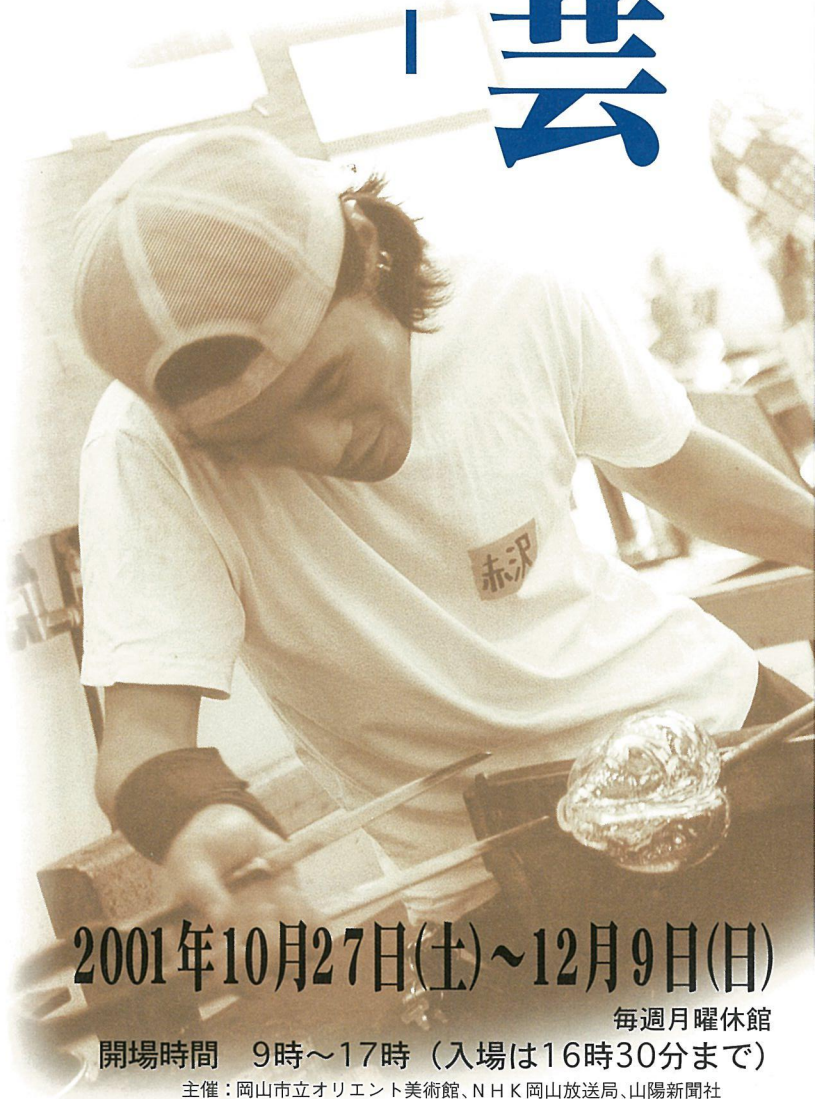
ガラス工芸

「歴史から未来へ」

古代の技法へ、さらなる挑戦



漏斗口長頸瓶 シリア 4世紀



2001年10月27日(土)~12月9日(日)

毎週月曜休館

開場時間 9時~17時 (入場は16時30分まで)

主催：岡山市立オリエント美術館、NHK岡山放送局、山陽新聞社

特別協力：倉敷芸術科学大学

後援：岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、岡山オリエント協会、岡山市連合婦人会、朝日新聞岡山支局、産経新聞岡山総局、中国新聞社、日本経済新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局、岡山放送、山陽放送、瀬戸内海放送、テレビせとうち、西日本放送



岡山市立オリエント美術館

岡山市天神町9-31 電話086-232-3636

古代技法に挑む19人のガラス作家たち

あの「ガラス工芸展」が、帰ってきました。

一昨年に開催した展覧会「ガラス工芸 -歴史と現在-」では、岡山市立オリент美術館のガラス器をまとめて公開し、ガラス作家による古代ガラスの復元制作や、それらに想を得た新しい創作の可能性の追求で、好評をいただきました。このときの成果から、今年になって愛知（瀬戸市文化センターなど3館）と東京（古代オリент博物館）でも展覧会が開かれ、企画のユニークさが衆目を集めました。

このたびはその里帰り展でもあります。新収蔵品や一昨年には公開されなかった200点近いガラスピーズを加え、作家もこの2年間で新しい作品に挑み、復元と創作の対象は前回より遥かに大きく広がりました。

ガラス工芸はメソポタミア・エジプトに始まり、ローマガラスやササン朝、イスラム期を経て、ヴェネツィアなど近代の隆盛に引き継がれましたが、この間の歴史過程で忘却された古代の複雑な制作技法を解明するには、ガラス作家の技術や経験に教わるのが有意義です。今回の復元制作では、前回の凌ぐ探究の成果がふんだんに盛り込まれ、その充実ぶりが驚きを誘うことでしょう。

オリентのガラス工芸史の全貌を本館の豊富な所蔵品で見渡しながら、美術館と造形作家が共同で創るこの展覧会では、作家の技量と工夫を通じて、ガラス素材の不思議とその造形の可能性を、私たちの目の前に鮮やかに体験できるでしょう。

今回もぜひ、御期待下さい。

参加作家

赤澤清和、有松啓介、石川昌浩、石田 彩、磯谷晴弘、家住利男、香川三枝子、金子まゆみ、小谷真三、小谷栄次、迫田岳臣、新谷良造、田井将博、寺島淑華、橋本幹生、松島 巖、矢野太昭、横山秀樹、若林克昌



浮出切子碗 イラン 6世紀



浮出切子碗（復元）



岡山市立オリент美術館

岡山市天神町9-31 電話086-232-3636



●JR岡山駅東口より徒歩15分。
●路面電車「東山」行きで5分。「城下」下車、左手すぐ。

関連講座（本館地下講堂、定員各100名）

11月11日（日）10時～12時
講座「金箔ガラスにみる
初期キリスト教時代の聖人像」
藤井慈子（上智大学博士課程）

11月11日（日）13時～16時30分
座談会「古代ガラスを復元して」
ガラス工芸展参加作家

11月17日（土）13時～16時30分
講座「ビザンティン・モザイクの
ガラステッセラ」
飯島章仁（本館学芸員）

*11月11日は通して聴講料500円。17日は無料。
*お申し込みはオリент美術館（086-232-3636）まで。



貼付文把手付水差 イラン 8～9世紀

入館料

一般：700円（前売550円）
高大生および満65歳以上の方：500円
中学生以下無料

20名以上の団体は当日料金から各100円引き

割引券

この券で2名様まで割引になります（おひとり50円引き）

●一般700円を 650円
●高大生 500円を 450円
●満65歳以上 500円を 450円